

次期総合計画小和田地区懇談会概要

日 時 平成21年7月12日(日) 13時30分～15時30分

場 所 小和田地区コミュニティセンター

参加人数 20人

天 気 晴れ

事務局参加者 市長、木村企画部長、高橋企画調整課長、矢島財政課長、金子主幹、小池課長補佐、榊原課長補佐、坂田担当主査

* (市民) 次期総合計画平成20年度地区別懇談会の意見についての対応のなかの17番 公衆トイレの整備について、前回お願いしたときは、市長は今後中規模の公園については災害時のことも考えて公衆トイレを設置していきたい、ということをお場で言われたと思うが、これですと完全に海岸の方はやるけどそのほかの地域については計画的な設備の予定はありませんとなっている。今後のまちづくりではどういう位置づけになるのか。

(事務局) この件についてはなかなか設置自体難しく、計画的に進めていくということではありませんが、地域規模・施設的にその後の維持管理ができるような状況であれば進めていく必要があると思います。併せて井戸の問題があります。地区のコミュニティで今健在検討は進めております。

* (市民) 東小和田公園はどうなんですかね。安全パトロールや散歩をしているが、小和田、本宿、代官町、赤松町含めて公衆トイレが一つもないんです。非常に困る。人に優しいまちづくりということであれば考えて欲しいですね。

(事務局) 改めて検討させていただきたいと思います。

* (市民) 赤松町の住人ですが、今まで藤沢に関東という工場があり、騒音に悩まされていました。ものすごい振動が昼夜絶え間なくあり、地震かと思うくらいだった。その工場がなくなり、広場になり喜んでいたら、今度は赤松町側に住宅地区の計画ができ、低層の住宅地区になると解釈していたら、14・15階の高層マンションができている。配置図を見て矛盾を感じなかったのか。

また、辻堂駅北口は真っ白な駅ですばらしいが、西口は真っ黒な駅である。海と太陽とみどりのなかで人が輝くまちではなくなる。黒は輝く色じゃないと思う。真っ黒の建築物はやめて欲しい。

関東の振動に少々悩まされたうえに、茅ヶ崎と藤沢の間に塀のような物ができている。どうして行政は何もやってくれなかったのか。疑問を感じる。

(市長) カントク跡地の湘南シークロスのまちづくりについては、カントクの工場撤退の議論があってから、藤沢市と茅ヶ崎市の間で連携しながらまちづくりについて議論をし、両市の近隣の住民の方々の意見も交えながらまちづくりの青写真を作っていきましょう、という合意の基でこれまで議論をし、都市計画上の決定をしてきました。この取

り組みの中では藤沢市側は藤沢市民を交えた市民検討会議もでき、茅ヶ崎市側は茅ヶ崎市市民の住民の代表の方々にも加わってもらいながら、逐次進行状況も地域の住民の方々にもペーパーにしなが、ペーパー等発行させていただきながら、取り組んできました。

市境の周辺の方々からも意見をいただき、一番大きかったのは、市境道路の整備についての様々な意見があがっていたことは承知しています。

駅前に一定規模の商業施設等を建設するというなかで、そこと今の茅ヶ崎側の低層の良好な住宅街との緩衝的な役割を果たす意味合いの住居経営の土地設定をして欲しいといった話があったことも承知しています。

そうした中で、現在あるエリアは全て藤沢側ですから都市計画の手続きは藤沢となりますが、茅ヶ崎側の住民の代表の方々また近隣の商店の方々のご意向を踏まえながら、都市計画の決定をしてきたというプロセスがあります

このことについては茅ヶ崎のなかでも折ある毎に市議会にも報告をしてきましたし、そこであがった意見については藤沢側に伝えながら一定の議論をし、今の決着点になっています。

具体的な建物の話ではありますが、それについては都市計画の中で位置づけた制限・高さ・容積を維持していただきながら計画をしてもらっていると理解しております。

個別、制限はクリアしていても配慮が欲しいということは住民の方々のご意向としてはあるかと思ひます。それについては、これから事業者の説明会のなかで、近隣の住民の方が、事業者に対してあげていただくということは必要かと思ひます。それに対し、事業者から誠意ある対応・適切な回答すらないといった状況であれば、市として藤沢側に申し入れをすることはできるかと思ひます。

辻堂駅西口の整備についてですが、今はまだ暫定的に取り組んでいる最中ではす。

まずは本屋口側の整備をしていきます。

西口の方は、跨線橋の架け替えの作業も逐次していると思ひます。この作業が進んでいくと、貨物線の線路位置をずらしなが、ホームの幅を拡張する作業を行います。それと若干並行しなが、西口橋上駅舎の整備を行っていきます。

今は西口の北側跨線橋整備中心の工事が先行していますが、これからは南口も皆様の利便性が向上する形で今地権者と交渉しなが、計画の進展をしているところです。そうした情報につきましても地域自治会の方を通してご報告をさせていただきます。

* (市民) そのまま黒い駅ですか。黒で出来上がっている。あれで仕上がりだと聞いている。緑という人もいるがどう見ても黒にしか見えない。

(事務局) どの部分でしょうか。

* (市民) 橋げたです。向こうが真っ白なのに何でこっちはまっ黒なんだ。

(事務局) 工事行程の中で色を何回かに分けて塗ることはありますので、今後JRに確認して改めてご説明させていただきます。駅舎自体の設計については今後のことですので、それらにつきましても、担当課を通じて藤沢市・JRに確認したうえで改めてご説明したいと思ひます。

* (市民) 相談があったことを私は全く知らなかった。高層マンションが建つことに住民

が合意したということか。

(企画部長) 事業者が先行してやっているわけではありません。どんな事業でも協議は行っています。

(市長) シークロスの件については、今まで都市部でも市民の要請に応じて説明会を開いていると聞いています。この会議で住民の方からこのような話が出ているということを担当課に伝え、ご連絡するよう指示します。

* (市民) 人々が行き交う快適なまちづくりで施策目標4 1に道水路式の管理、道路網を整備するとあるが、快適な水環境が守られるまち、茅ヶ崎市内でもまだまだ公共の下水道が不備なところがあり、小和田地区でもまだまだ豪雨等発生したときの被害を被っているという話も聞きます。セットバックされたところがまだ舗装されていない。緊急車両が入れない道路がまだまだあります。身近にある部分を先に考えていただきたい。

また、事務局案、全てを期待するところではあるが、その中でも市が重要であると思っているところを聞きたい。

(市長) これからの茅ヶ崎のなかでどんなに厳しくてもやっていかなければならないことは3点ほどあります。

最重要なのは、市民の皆様の安全安心の確保。

雨水時、大雨が降ると冠水する地域の解消のために下水道施設・雨水幹線整備・貯水池の整備等かなり精力的に進めて参りました。こうした取り組み、さらには安全性の確保ということで公共建築物の耐震性の確保の事業も年間十数億強の予算を投入しながら進めてきました。こうした取り組みは今のところ達成率で6割いっているかどうか。特に雨水に関しての整備は当該地区には大変ご負担をかけております。下水道施設関連の整備は下流域からしていかなければならないということから、上流域の小和田地区の皆さまにはご負担をかけております。一日も早い解消を含め対応は最重要課題と認識しております。

セットバックした道路については、少なくとも2カ年の事業年度を超えない範囲で整備ができるよう予算付けをして進めていきたいと考えております。

緊急車両の入れない道路が多数あるというところについては、行政も狭あい事業についてご協力をいただく働きかけはしていきますが、今は建て替えの際にご協力いただいているのが大方の事例とっております。これ以外でも市民の皆様にも積極的にご協力いただいて、この事業が短時間で進展していけるよう、重点的な位置づけをし、手法を考えていきます。

何をあいても、安全安心を確保するという取り組み、政策目標の8番、11番、12番の取り組みというのは重点化して対応しなければいけない部分が多いと思います。

併せまして、どんなに厳しい社会情勢のなかでも、次の時代を担っていく人材を育てることは非常に大事なことであります。人づくりの政策目標1番から4番まで。これは人が生まれてから老いていくまで、いろいろなプロセスの一貫した中で、このまちのなかでいろいろな経験をし、このまちを考え、このまちのなかで様々な取り組みができるということを大事にしていこうという軸です。財政面では厳しいものがありますが、子どもたちが成人していく時期までのしっかり対応しなければいけない課題だと思います。

っています。

あともう一点。

将来の都市像に書いてありますが、海と太陽とみどりのなかで人が輝く湘南茅ヶ崎とありますが、これは市民検討委員会の中でいろいろと議論をしていただきながら都市像の方向性を出していただきました。市民のアンケートの中でも一番大きい要望は、私たちがこのまちに住んで、このまちの魅力である快適な住環境を維持していく、そしてみどりや海浜をよりよい形で次世代に受け継いで欲しいという思いです。これはアンケートや意向調査でも必ず上位にくる事柄です。一度壊してしまうと取り戻すのに莫大な時間と経費がかかります。自然環境を含めた住環境を維持していくということにも力点を置く必要があるのかなと思います。

今後の事業の採択順位を決めていくうえでもこの3点をベースにしながら考えていかなければならない視点だと思っております。

- * (市民) 事務局案に基本的には賛成する一人ですが、14ページの財政面は市の財政だと思うが、実施するためには県・国からお金が出ると思うがどうなっているのか。
(事務局) 今作っている14ページは、再編計画に基づく事業費それに伴う財源、経常的に行っているような決定上の部分の財源・事業費を見込んでおります。これからの個々の計画を組んでいく中にも国・県からのもらえる事業、市債発行をして行う事業もあります。個々に実施計画ができた段階でさらにこの債の中に盛り込んでいきます。現在は基本的な部分ということでご理解をいただきたいと思います。
- * (市民) 市長から施策優先順位という話がありましたが、政策目標8安心・安全、施策27市民生活の安全の中で防犯・交通安全があり、政策目標1、2に関連する子育て・教育こんな環境作りという中に是非明文化して欲しいのは、小学生の通学路の問題です。中島中学校から小和田小学校まで広い範囲だが、安心して子どもさんが学校に行き帰ってこられる環境づくりを明文化してください。
- * (市民) 赤松町通りは朝7時が一番ひどいが自転車ですべて80%から90%右側駐輪場が右側、程島右側歩行者は危険で歩いていられない状態です。私も写真も撮っており、記録として残しておりますが、構造そのものがだめ。途中で信号がなく、横断歩道も5ヶ所くらいしかない。行政警察住民三位一体で検討しなければならないのではないかと。
(市長) 一昨年第一中の生徒が亡くなるという事故がありました。危険箇所をあげて順次取り組むとしていますが、なかなか進んでおりません。道路に面する敷地前の方がガードパイプがあることでスピードが落ちる。ガードパイプの効果を周知し実施計画の策定作業の中で十分参考にさせていただきたいと思います。
赤松町の朝の時間帯の件は、どういうふうに解決するかは行政・警察・住民で知恵を出し合いながら考えなければならない。市民集会でも発言があるとのことなので、検討の機会を作らせていただきたい。
- * (市民) 小和田地区全体の話として、C-Xが整備され、環境が変わってくるというのは感じています。できあがってからでは遅すぎます。

交通・人の流れ・治安が変わり、小和田地区にも影響が出てくる。交番の設置。警察行政の話だと交番を作るのにはかなりお金がかかる。人材確保、場所の確保といった問題が出てきます。だが、実際には交番がない。小和田・浜竹・浜須賀西の方は羽鳥になってしまう。その中間の赤松、本宿にはない。いつも交番に警官がいない。シークロスが完成してくると環境も変わってくると思う。その辺も考慮して欲しい。

(市長) 市境で警察の管轄も違っている。シークロス建設整備をして一定規模の人口の対応が必要なことは承知していると思う。藤沢市に確認はいたしますが、こういった治安の維持体制をとっているのか確認します。

交番の要請がきております。県・県警本部に伝えておりますが、100ヶ所近い要望がある中で交番要請が多い中で人材の問題から増やせない、ということも承知しています。藤沢警察署との考えとも考慮した上で対応させていただきたいと思います。

* (市民) まちづくり生き生きと暮らす医療サービスがでていますが、お産は取り扱わないとかいうことはないように高度の医療もさることながら、ドクターの数を確保しなければ住民のニーズに応えられないので、医療のニーズも必要ではないか。

* (市民) 平塚と藤沢の狭間でつい比べてしまうが、一番茅ヶ崎で劣っていると思うのは、行政サービスの点で、藤沢は市民の総合的な市民窓口の数が11ヶ所もある。茅ヶ崎には5ヶ所しかない。最小限の窓口しかない。住宅や福祉の問題となると本庁舎に行かなければならない。市民の平等からいっても不利を被っていると思う。これを中核に基本構想に入れていただきたい。

(市長) 今のご提案ですが、それぞれのまちで窓口サービスの考え方はいろいろあって、歴史的な経過のなかで施設整備のあり方もあったと思いますが、藤沢はそれぞれの地域活動の拠点と併せて窓口サービスをする拠点も整備をしてきたという経過があります。

茅ヶ崎におきましても今いくつかの窓口サービスを展開する拠点を置いておりますが、将来的に今のままでいいのかという議論は内部でも進めております。この考え方を、近々基本構想づくり、これに従った実施計画を策定するうえでもオーソライズしなければいけないと思っております。いまのご意向を非常に大事にしたいと思えます。

これから高齢社会となっていく中で、身近なところで皆さまがいろいろなサービスを受けられるということ、一方では大事にしていかなければならないと思えます。こういった取り組みも併せてやっていくことで、皆さんの利便性が上がり、なお且つコスト的にも抑えて展開できるのか、その辺の方向性をきちんと打ち出していきたいと思えます。

* (市民) 茅ヶ崎市は1800の市町村の中で、財政・教育含めてどの程度の市なのか。

財政的に高望みをしてもしようがない。どの程度どのレベルで我々は満足しなければならないのかを教えて欲しい。

(事務局) 一つの参考として、昨年茅ヶ崎市を語る七つの論点ということで、都市をランキングづけした資料をご提供させていただきましたが、たとえば、住み良さランキングで県内比較で鎌倉を1位として茅ヶ崎は12位、そのうち総合評価は全国都市約900のなかで330位、富裕度79位、快適度131位、利便度は733位と少し低いレ

ベルです。

* (市民) ではもう少し我々の方で計画をお願いしてもいいですか。

(事務局) 茅ヶ崎市に限ったことではありませんが、どこの自治体についても高齢化・少子化が進んでいき、財政について語ったときには生産年齢人口が落ちてくるとなり、全国どこの自治体も大変厳しい状況で茅ヶ崎に限ったことではありません。

(市長) 実際、これだけの面積の場所に23万人超の市民が住んでおりまして、行政課題も多いのも実情です。道路整備一つするにも、道路の舗装の価格は全国そんなに差はありません。しかし用地を買収する費用となると桁が2桁くらい違ってくる。事業展開しなければならないというなかで、やはり都市部のコストがかかるというのは事実です。

それにマッチした国からの財源の市に対する負担があるかということ、私は若干疑問を持っております。いろいろな物差しの中で国は補助金とか補助率とかを決めていますが、そういった中で一定の評価はしているが十分かといえばそうは思いません。

国と地方が集めている税は6:4で国の方が多い。しかし事業は逆の比率です。そういうなかで、大きなしわ寄せを受けているのは実は首都圏、中部圏、近畿圏の都市部がかなりしわ寄せを受けていると思います。

物差しを変えるというのは難しい問題なので、集める税を事業を展開している割合に極力近いところで設定すべき、国税を地方に移譲すべきとの議論をしていくことが必要かと思えます。

税源の移譲を首都圏の組長とも連携をしながら移譲を求めていきたいと思えます。

* (市民) 高齢者が増えると税収が減るといわれているが、高齢者の税金が本当に若い人より少ないのか調べて欲しい。

(事務局) 高齢になったから減るというのではなく、リタイアされた方が年金となることで税が減ってくることから、税が減ってくるということになると思えます。固定資産税はそれほど変わりません。主力が資産税の方に移っていくことであろうかと思えます。

* (市民) 福祉や医療以外にあまりお金を使うべきではないと思う。そういう意味でものを作ることをやめてはどうか。

また、自転車で駅まで来て、またお金がかかる。自転車はすごくいい乗り物。平場にスペースがあれば駐輪してもよいのではないか。

サービス面よりも行政をやっていった方がよいのではないか。

(市長) たとえば、茅ヶ崎には図書館は南側に本館、香川には分館があります。北口側にも大きな本館が欲しいという要望もありますが、お金をかけて箱物を作るよりそうではない手法で、公民館やコミセンなどにある図書コーナーの充実、インターネットで本館にアクセスし、リクエストした本を受け取り、また返せる。その分蔵書を増やしたりほかの利便性を図る等の選択が必要かと思えます。

自転車を大事にというのもよいことだと思います。ただ、その一方で歩道を整備しても、そこに自転車が置かれるとなると、これから高齢化していくなかで歩道を通行するのに支障を来すことが考えられます。

いろいろな案件について、皆さまと話を議論させていただきながら方向性を整理していく必要があると思います。

* (市民) 政策目標 1 4 の農業経営の合理化は何を合理化するのか。

茅ヶ崎市の農業従事者が減っているのになぜ合理化が必要なのかがわからない。国道と東海道線から南にほとんど農家をやっている人はいない。

税収の話が出ているが、調整区域の縛りを緩やかにしてもらえないか。そこに住宅が進出してくれば税が増えるのではないか。固定資産税のためにも戸建てにしろ。行政として考えてみてはどうか。

(事務局) 次期総合計画では、庁内の全ての組織が目標を掲げて実行していくことを考えています。政策目標 1 4 につきましては、農政課とはかぶりますが、農業委員会では、農地法に基づく申請・事務処理・国有農地の管理状況等の調査を行っており、農地の集約化を担っていることから目標を掲げています。

(市長) 目標ところは、文言の詰めはまだまだ理解がどのようにされるかというところの視点があると思いますので、文言の整理はさらにさせていただきたいと思います。

調整区域を市街化していけば税収も増える一面もありますが、それに対しいくつかの制約があります。調整区域を市街化区域に変えるには都市計画の変更が必要で、素案は茅ヶ崎市でしたとしても、神奈川県域全体を通してどうなのかという評価が県からもされます。農政区域については農業の政策上どうなのかといったことが国・県からもされます。そういったことに全て合意形成がなされて調整区域から市街化区域に入っていくというプロセスがあります。なかなか難しいのが現状です。

今回、相模縦貫道路が建設されている萩園地域に寒川南インターチェンジができ、ここを市街化区域に編入して商工業の拠点として整備ができないか調整しています。そういった大儀がないと県や国との調整がほとんど不可能というのが現実です。

* (市民) 政策目標、施策目標は大変立派だが、お金がつかまとう。現在でも市は負債を抱えていると思うが。

現在抱えている負債とのシミュレーションはされているのか。されていればお聞かせ願いたい。

(市長) 確かに、平成 3 2 年でいうと A パターンと D パターンで約 6 0 億から 7 0 億位の開きがある。今一つを決め得るような経済状態ではないというなかで、国が出しているいろいろな指標に基づいていくつかの想定をする必要があるのではないかと、この 4 本を想定しました。

実際は B パターンと C パターンの間に収まっていくのが想定としては正しいと思います。それだとしても基礎的な人件費、福祉的な扶助費、借金を返す公債費さらには今の時点で決めております公共施設再編整備事業、一定額の事業の額で折れ線グラフと棒グラフが一緒になってしまい、他の事業はできないんじゃないかということになります。それが現状ではないかと思えます。

ではどうするか。まずは内部の努力として、棒グラフになっているところについて歳出の工夫はできないか。たとえば、1 3 2 億から 1 4 0 億前後の人件費をもう少し軽減

することはできないか、固定的な事業としてエントリーしている事業をもう少し事業費を抑制できないか、公共施設再編計画事業を平準化してもう少し先延ばしすることで棒グラフの伸びを減らすことはできないか、などの議論を一方では進めています。

折れ線グラフにしても、より上に上げていく工夫、いま税の収納率が90%前半です。これをもう少しあげていくことはできないか。優良な企業が外に出て行かないよう抑止しながら税収確保につながるような取り組みができないか、等の議論も進めています。

先ほども述べたように、茅ヶ崎市が独自に、本来国が持っている税源を地方に来るよう要求することも大変重要かと思っています。

それらのことを展開しながら総合計画に使っていける一般財源を増やしていかなければいけないと思います。

これからの将来の方々に過度な負担を強いることはできません。現在ある420億の市債残高をこれ以上増やさない、この数年間で100数十億減らすことができたが、この方向で行くことは変えたくない。これからも借金と返済のバランスも考えながら財政運営をやっていくことが重要だと考えています。

* (市民) 是非、サービスは落とさず固定費のスリム化を図ってください。

(市長) 職員の数は県下19市あって、人口辺りの職員数は一番少ないです。その中で行政運営をやっていることは市民の皆さまにご理解いただきたい。ただ、今行政需要はどんどん増えてきています。事業が増えても人件費は極力抑えて進めていきたいと思えます。